

学校経営推進費評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立東住吉高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路の実現
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国公立大学進学者数の維持・増加 ・ 難関私立大学進学者数の増加
計画名	QA (Question&Advice) スペースプラン ～進路に向けての疑問はここで解決！～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 進路を実現する確かな学力の養成 (2) 一人ひとりの生徒の希望の進路を実現する。</p> <p>ア 進路について考える機会を豊富に用意し、希望の進路を実現する強い意志を育む。</p> <p>イ 学習習慣の確立のために、年間を通じた自習室運営、長期休業中の勉強合宿等に学校組織として取り組む。</p> <p>ウ 情報収集、情報分析を行うとともに、志望校情報交換会などを行い、生徒支援のための情報共有を進める。</p> <p>* H28 年度入試結果（国公立 39 名、関西難関私立大学 250 名）を 30 年度・31 年度入試でも国公立大学 35 名以上、関西難関私立大学合格 230 名以上を維持する。（現役・浪人のべ）</p>
事業目標	<p>この「QA スペース」は、従来本校が「自習室」として力を入れて全教員で運営してきた、生徒の自主学習の習慣確立をサポートするための質問スペースであり、また、進路指導部が主催して教員が情報収集・情報分析した進路情報を個々の生徒に伝えていくためのアドバイススペースでもある。また、進路決定に向けて不安を抱く生徒に寄り添い励ますためのカウンセリングスペースともなる場所である。</p> <p>このスペースの設置により、生徒の進路実現の支援を強化する。</p>
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人用机…15 脚 ・ 椅子…30 脚 ・ 電気スタンド…15 台
取組みの 主担・実施者	<p>主担者：教頭・首席 実施者：全職員</p>
本年度の 取組内容	<p>本校では、8 月及び年末年始の各 4～6 日間を除き、平日は午前 7 時から午後 7 時まで、土曜日曜祝日は午前 9 時から午後 5 時まで、生徒の学習意欲を喚起し学習習慣の確立を支援するため、ほぼ毎日自習室を開室している。定期考査期間中には自習室の座席が不足することから、自習室のほか視聴覚階段教室、会議室の 2 つの部屋が臨時的自習室となることもある。</p> <p>今まで、自習室は完全に無言での活用が習慣となっているため、生徒が自習室等で自学自習を行う過程での教員への質問等については、各教科の職員室前などで、生徒、教員の双方が立ったまま、質問をしたり、指導を受けたりしていた。</p>

	<p>昨年度、学校経営推進費を活用した QA スペースを設置したことにより、質問等がある生徒は、各教科の準備室前に設置された「QA スペース」で双方が座った状態で指導を受けることができるようになった。</p>  <p>QA スペースの新設により、生徒からは「質問しやすい」、「質問を待つ間も勉強できる」といった声が聞かれる。教員からは「熱心に質問、自習している生徒が多数見られる」「出勤してくる教員を準備室前のこのスペースで勉強しながら待ち構えている」などの感想が聞かれた。</p> <p>このように、QA スペースは非常によく活用されている。</p>
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>▽ 国公立大学合格者数目標 35 名以上（H29 年度 27 名（現役 22 名））（H28 年度 38 名（現役 22 名））</p> <p>▽ 難関私立大学合格者数目標 230 名以上（H29 年度 176 名（現役 147 名））（H28 年度 250 名（現役 214 名））</p>
<p>自己評価</p>	<p>▽ 国公立大学合格者数の維持・増加 ⇒ 平成 30 年度は現役では 21 名、現役浪人合わせては 36 名の合格となり、浪人生の健闘により成果を出すことができた。 一定 QA スペースの効果は出たと思われる。……………（○）</p> <p>▽ 難関私立大学進学者数の増加 ⇒ 平成 30 年度の合格者数は現役では 122 名、現役浪人合わせては 161 名となり、期待には及ばなかったものの、健闘しており、QA スペース活用による成果は出ていると思われる。……………（△）</p>
<p>次年度に向けて</p>	<p>2 年めとなり、よく活用され、定着してきている。冬季は廊下の気温が下がるため、学校管理費で電気ストーブを 2 台購入し、活用促進を図っている。</p> <p>学校説明会でも広報しており、「先生が親切に教えてくれる場所があるそうですね。」と中学生の保護者から言われるなど、期待やイメージアップにつながっている。</p> <p>次年度もさらに十分活用していきたい。次年度以降も多くの私立大学で合格者数が絞られる見通しであるが、それを踏まえて受験指導対策を実施していきたい。</p>